

2009年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設され、今年で5年目を迎え、2010年3月末時点で100名以上の卒業生を社会に送り出すことができた。

これまで一貫して言い続けている通り、本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、会計大学院における教育であり、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 semester 終了後にアンケートを実施している。

過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2010a.html>) で公開している。私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、将来私たちが教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院への関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をメール等でいただければ幸いです。

2010年5月14日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告は、2009年度後期末に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末資料1参照）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末付資料2参照）

アンケートは講義中に配布・回収を行い、延べ人数にして342名の回答を得た。アンケートは無記名であり、①については1学生につき1回限りの回答とした。②については履修者が5人以上であるすべての講義について実施した。希望があった場合は、履修者が5人未満の科目についても実施している。

本報告書では、最初に①のアンケートの集計結果を示し、そこから本会計大学院の教育システム全般に関する分析、問題点の洗い出し、今後の対応などについて述べる。次に、②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。

本報告書では、アンケートから得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている。そこで、①における自由記入欄の内容については、次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし、重要と思われる意見についてのみコメントを行いたい。また、②の科目ごとのアンケートの集計結果は、次年度以降の講義の参考となるよう、担当教員に直接報告している。

今回の報告の目的は、本会計大学院における教育の現状を学生・教員へタイムリーに報告することである。なお、科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目17の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されており、ワークショップ委員会では、これが次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2009年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修している「財務諸表」（履修者46名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は42であり、会計大学院の在籍者数の半分以上から回答を得られたことになる。従って、会計大学院のカリキュラムについて学生がどう思っているかを把握するには、ある程度の参考になるものと考えられる。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、開学当初からの推移を示す。2005年度と2006年度には、前期にもカリキュラムについてのアンケートを行っているが、紙面の大きさを考え、ここでは後期実施分のみ示すこととする。なお、全項目の集計結果については巻末資料3を参照されたい。

設問1は受講者の属性を問うものであり、本アンケート回答者42名中36名が会計大学院学生、6名が経済学部生であった。従って、おおよそ会計大学院学生の声を反映したものと考えてよいだろう。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
適切である	11.11%	42.00%	32.79%	20.00%	26.19%
ほぼ適切である	11.11%	36.00%	34.43%	50.00%	45.24%
どちらともいえない	44.44%	16.00%	14.75%	16.67%	19.05%
やや不適切である	0.00%	2.00%	11.48%	13.33%	7.14%
不適切である	33.33%	4.00%	6.56%	0.00%	2.38%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	61	30	42

設問3： Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
適切である	0.00%	28.00%	16.67%	10.00%	21.43%
ほぼ適切である	33.33%	20.00%	25.00%	30.00%	28.57%
どちらともいえない	11.11%	22.00%	26.67%	26.67%	28.57%
やや不適切である	33.33%	24.00%	18.33%	26.67%	19.05%
不適切である	22.22%	6.00%	13.33%	6.67%	2.38%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	60	30	42

設問4： オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
5回以上	33.33%	6.12%	9.84%	6.67%	0.00%
4回または3回	11.11%	14.29%	13.11%	16.67%	4.76%
2回	11.11%	16.33%	26.23%	13.33%	16.67%
1回	22.22%	14.29%	16.39%	10.00%	11.90%
利用しなかった	22.22%	48.98%	34.43%	53.33%	66.67%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	49	61	30	42

設問5： Semester開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
役に立った	11.11%	18.00%	38.33%	30.00%	23.81%
まあまあ役に立った	22.22%	32.00%	23.33%	26.67%	47.62%
どちらともいえない	11.11%	18.00%	15.00%	23.33%	26.19%
あまり役に立たなかった	22.22%	14.00%	10.00%	16.67%	2.38%
役に立たなかった	33.33%	18.00%	13.33%	3.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	60	30	42

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
適切である	0.00%	14.00%	18.03%	10.00%	7.14%
ほぼ適切である	33.33%	16.00%	24.59%	33.33%	30.95%
どちらともいえない	55.56%	38.00%	29.51%	36.67%	38.10%
やや不適切である	0.00%	16.00%	16.39%	13.33%	14.29%
不適切である	11.11%	16.00%	11.48%	6.67%	9.52%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	61	30	42

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
5 時間以上	11.11%	32.65%	35.00%	43.33%	34.15%
4-5 時間	0.00%	16.33%	20.00%	20.00%	21.95%
3-4 時間	0.00%	8.16%	16.67%	6.67%	9.76%
1-3 時間	44.44%	28.57%	15.00%	16.67%	12.20%
していない	44.44%	14.29%	13.33%	13.33%	21.95%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	49	60	30	41

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
役に立った	55.56%	62.50%	56.67%	58.62%	57.14%
まあまあ役に立った	22.22%	33.33%	23.33%	41.38%	23.81%
どちらともいえない	11.11%	2.08%	15.00%	0.00%	16.67%
あまり役に立たなかった	11.11%	2.08%	1.67%	0.00%	2.38%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	3.33%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	48	60	29	42

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009
考えている	55.56%	72.92%	67.24%	82.76%	71.43%
まだ決めていない	11.11%	4.17%	6.90%	6.90%	9.52%
考えていない	33.33%	22.92%	25.86%	10.34%	19.05%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	48	58	29	42

設問 10 : OB 会について (この設問は 2007 年度に追加したものである.)

選択項目	2007	2008	2009
賛成	51.72%	66.67%	57.14%
反対	6.90%	3.70%	2.38%
分からない	41.38%	29.63%	40.48%
計	100.00%	100.00%	100.00%
総数	58	27	42

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の分析結果を基に、特徴が顕著なものについて問題点を明らかにし、今後の対応について検討を試みる。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」および「ほぼ適切である」の合計は7割を越えており、科目配置はおおむね受け入れられていると考えて良いだろう。また、「やや不適切である」と「不適切である」の合計も1割を下回っており、科目配置は学生側から見て好ましいものだったと考えられる。今後もより望ましい科目配置へ向けて、個人面談等の機会を活かして改善をしていきたい。

設問3（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が5割であった。しかし、依然として「やや不適切である」と「不適切である」の合計も2割を越えており、改善が望まれる。2年次後期に履修できる選択必修科目が少ない領域等がないよう、今後も注意を払っていきたい。

設問4（オフィスアワー）については、これまでとは異なる傾向が見て取れた。5回以上オフィスアワーを利用した学生がいなかったこと、そして、一度も利用しなかった学生が3分の2であったことが挙げられる。本会計大学院では教員の研究室は講義が行われている講義室の近くにあり、教員と学生の距離が近い。そのせいか、「講義の終わり等を含むオフィスアワー以外の機会に質問を済ませてしまう」という学生が多い。教員と学生の距離が近く、コミュニケーションがとりやすいことがオフィスアワーが利用されないことの原因になっている可能性が高いが、オフィスアワーや個人面談等のあり方については、今後も模索を続けていきたいと考えている。

設問7（受験勉強にかける時間）は、この数年は2割未満だった「していない」が2割を越えた。「していない」と答えた学生が、いずれは公認会計士試験の受験勉強を始めるつもりだがまだ始めていないだけなのか、それとも他の進路を検討しているために受験勉強をする気がないのか、その内訳は不明である。この設問の結果から分かるのは、どうやら学生の多様性が大きくなってきているらしいということだけである。本会計大学院には「高度会計職業人コース」と「公認会計士コース」の二つがあり、ほとんどが「公認会計士コース」に所属している。公認会計士コースに所属はしているが、その目的が公認会計士試験の受験だけではないということになれば、「高度な分析能力を身につける」という会計大学院設立当初からの目的に合致して、会計士試験受験志望者以外にとってもよい勉強の場を提供しているのかも知れない。

設問9（在学中の受験）では、2008年度の10.34%に対して今回は19%以上の学生が「在学中の受験を考えていない」と答えた。受験準備の進捗にもよるだろうが、設問7と合わせて考えれば、学生の多様化と解釈出来るかも知れない。今後の調査によって、学生の動向を見極めたい。

4.「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

2009 年度後期における開講講義数は 42 科目であり、そのうち履修者が 5 名以上の講義についてアンケートが実施された。開講科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
コストマネジメント	6	6
情報システム管理	9	8
ビジネス・プレゼンテーション 1	7	2
原価計算 2	43	37
簿記 2	45	36
監査計画の編成法 1	19	18
内部統制の実務	21	19
財務諸表	46	27
連結財務諸表	32	21
事例研究（財務諸表）	18	13
財務諸表分析	26	22
財務行政	5	2
事例研究（法人税法）	6	6
企業情報システム	14	12
事例研究（経営管理）	8	4
事例研究（管理会計）	7	7
会社法	21	9
上級監査制度	21	18
マクロ経済学	7	6
金融論	5	4
消費税法	8	6
国際会計基準	41	38
会計職業倫理	28	21
合計	416	342

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表 1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、延べ履修者数 416 名に対して 342 名から回答を得た。アンケートの回収率は 70.23% であり、前回（2009 年度前期, 73.67%）からやや下がったものの 7 割を超える回収率であった。なお、質問項目 17 は科目担当教員が独自に行う質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	63	271	10	15	65	82	185	226	218	203	195	159	227	114	181	3
4	258	41	7	12	19	173	107	75	78	83	104	89	78	129	109	11
3	2	10	16	27	32	74	37	21	27	42	30	74	23	70	39	29
2	9	10	51	76	72	11	8	10	14	12	9	10	6	21	8	163
1	8	5	143	148	90	0	4	8	4	1	3	9	7	6	3	51
0	0	0	115	63	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	340	337	342	341	339	340	341	340	341	341	341	341	341	340	340	257
平均値	4.06	4.63	1.08	1.48	2.16	3.96	4.35	4.47	4.44	4.39	4.40	4.11	4.50	3.95	4.34	2.04
中央値	4.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.00	5.00	2.00
最頻値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	4	5	2

表2：アンケートの基本統計量

4.3. 設問ごとの相関

質問項目間の相関関係をみるために、次のような表を作成した。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.000															
2 出席	-0.182	1.000														
3 予習	0.022	0.007	1.000													
4 復習	0.035	0.017	0.741	1.000												
5 宿題	0.178	-0.028	0.494	0.511	1.000											
6 理解	0.045	-0.031	0.318	0.252	0.211	1.000										
7 難易度	-0.026	0.042	0.213	0.217	0.186	0.347	1.000									
8 教員準備	-0.131	0.016	0.216	0.240	0.187	0.292	0.486	1.000								
9 プレゼン	-0.007	-0.010	0.185	0.202	0.236	0.281	0.462	0.669	1.000							
10 教材	-0.007	-0.037	0.209	0.182	0.227	0.282	0.485	0.629	0.519	1.000						
11 評価方法	-0.029	-0.013	0.208	0.231	0.260	0.356	0.449	0.473	0.512	0.603	1.000					
12 シラバス	-0.047	0.040	0.281	0.323	0.353	0.308	0.431	0.479	0.505	0.479	0.483	1.000				
13 教員評価	-0.133	-0.009	0.202	0.238	0.231	0.249	0.557	0.731	0.750	0.569	0.561	0.509	1.000			
14 対試験	-0.075	-0.008	0.270	0.281	0.117	0.213	0.358	0.258	0.323	0.253	0.386	0.282	0.364	1.000		
15 キャリア	0.045	0.023	0.172	0.180	0.167	0.196	0.349	0.421	0.389	0.420	0.397	0.302	0.436	0.394	1.000	
16 資格	0.132	0.045	0.101	0.123	0.135	0.033	-0.074	0.033	-0.032	0.069	0.064	0.103	0.001	-0.084	-0.003	1.000

表3：質問項目数の相関関係

上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告については、会計大学院のホームページを参照されたい (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2010a.html>)。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去4年間の推移を示す。なお、2009年度後期のアンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
公認会計士コース（2年）						20.95%	33.85%	18.53%
公認会計士コース（1年）	82.11%	92.79%	93.01%	93.55%	89.78%	74.66%	57.80%	75.88%
高度会計職業人コース	5.96%	2.40%	0.24%	0.00%	0.54%	0.00%	0.44%	0.59%
経済経営学専攻	4.59%	3.61%	1.93%	3.46%	3.49%	3.04%	3.52%	2.65%
経済学部	7.34%	1.20%	4.82%	3.00%	6.18%	1.35%	4.40%	2.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	218	416	415	434	372	296	455	340

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
90%以上	91.93%	85.92%	88.78%	83.26%	85.29%	71.09%	79.39%	80.42%
89-70%	4.04%	9.55%	7.40%	8.94%	8.29%	17.69%	12.50%	12.17%
69-50%	1.79%	1.91%	0.95%	4.13%	2.67%	5.78%	3.95%	2.97%
49-20%	0.90%	0.72%	1.43%	0.92%	1.87%	3.40%	1.32%	2.97%
20%未満	1.35%	1.91%	1.43%	2.75%	1.34%	1.35%	2.63%	1.48%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	223	419	419	436	374	294	456	337

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
5時間以上	1.79%	5.46%	1.66%	2.52%	4.05%	3.69%	3.30%	2.92%
4-5時間	1.79%	4.04%	1.19%	1.60%	2.43%	2.35%	1.54%	2.05%
3-4時間	2.69%	6.41%	4.28%	4.58%	6.76%	8.72%	4.40%	4.68%
2-3時間	17.94%	13.78%	14.25%	10.76%	17.30%	14.43%	12.75%	14.91%
1-2時間	22.42%	26.13%	34.44%	41.88%	34.86%	33.22%	47.91%	41.81%
1時間未満	53.36%	44.18%	44.18%	38.67%	34.59%	37.58%	30.11%	33.63%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	223	421	421	437	370	298	455	342

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
5時間以上	2.25%	6.44%	4.75%	4.79%	4.29%	4.68%	4.16%	4.40%
4-5時間	4.95%	4.06%	4.51%	2.74%	2.95%	5.35%	1.75%	4.32%
3-4時間	6.76%	7.64%	7.84%	9.59%	12.33%	11.04%	8.97%	9.71%
2-3時間	20.27%	22.20%	24.23%	22.37%	18.23%	15.38%	22.10%	27.34%
1-2時間	35.59%	36.04%	33.73%	40.41%	41.02%	44.15%	50.98%	53.24%
1時間未満	30.18%	23.63%	24.94%	20.09%	21.18%	19.40%	12.04%	22.66%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	222	419	421	438	373	299	457	341

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
5時間以上	10.36%	13.14%	8.15%	8.08%	8.74%	11.15%	7.08%	19.17%
4-5時間	7.66%	5.60%	9.35%	6.24%	5.74%	5.41%	3.98%	5.60%
3-4時間	12.16%	10.22%	10.55%	10.85%	12.02%	14.19%	13.94%	9.44%
2-3時間	17.12%	17.27%	19.18%	18.48%	21.58%	20.61%	24.56%	21.24%
1-2時間	31.53%	21.65%	27.58%	29.56%	33.61%	29.39%	37.39%	26.55%
1時間未満	21.17%	32.12%	25.18%	26.79%	18.31%	19.26%	13.05%	17.99%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	222	411	417	433	366	296	452	339

設問 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
理解できた	23.66%	21.85%	18.48%	19.82%	24.18%	22.48%	30.35%	24.12%
ほぼ理解できた	52.68%	57.48%	50.71%	52.16%	51.36%	47.65%	47.38%	50.88%
どちらともいえない	19.20%	16.39%	22.99%	21.64%	18.21%	22.82%	18.12%	21.76%
あまり理解できなかった	3.57%	3.56%	6.40%	5.92%	4.08%	5.70%	3.71%	3.24%
理解できなかった	0.89%	0.71%	1.42%	0.46%	2.17%	1.34%	0.22%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	224	421	422	439	368	298	458	339

設問 7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
適切	45.29%	50.24%	51.67%	53.86%	56.84%	45.00%	59.39%	54.25%
ほぼ適切	38.12%	33.33%	27.27%	31.36%	29.22%	36.33%	28.17%	31.38%
どちらともいえない	13.00%	13.81%	17.22%	12.27%	11.26%	16.00%	9.83%	10.85%
やや不適切	2.69%	1.43%	3.11%	1.14%	1.61%	2.00%	2.40%	2.35%
不適切	0.90%	1.19%	0.72%	1.36%	1.07%	0.67%	0.22%	1.17%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	223	420	418	440	373	300	458	341

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
十分	63.84%	60.43%	66.67%	67.05%	65.59%	55.67%	72.11%	66.47%
ほぼ十分	25.89%	27.01%	21.43%	18.08%	20.43%	29.33%	19.39%	22.06%
どちらともいえない	7.59%	7.82%	8.10%	8.92%	7.80%	10.67%	5.45%	6.18%
やや不十分	2.23%	3.08%	2.14%	4.58%	2.42%	3.00%	2.61%	2.94%
不十分	0.45%	1.66%	1.67%	1.37%	3.76%	1.33%	0.44%	2.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	224	422	420	437	372	300	459	340

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
良かった	59.82%	45.73%	60.57%	59.13%	61.29%	49.83%	66.45%	63.93%
まあまあ良かった	25.89%	33.41%	19.71%	21.00%	22.58%	29.10%	22.88%	22.87%
どちらともいえない	8.48%	12.56%	10.45%	11.42%	9.14%	16.05%	7.63%	7.92%
やや悪かった	3.57%	5.45%	5.46%	5.94%	4.57%	4.68%	1.74%	4.11%
悪かった	2.23%	2.84%	3.80%	2.51%	2.42%	0.33%	1.31%	1.17%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	224	422	421	438	372	299	459	341

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
適切	54.71%	48.09%	51.31%	58.58%	54.84%	46.31%	62.14%	59.53%
ほぼ適切	30.49%	33.49%	28.50%	23.57%	25.54%	32.89%	23.41%	24.34%
どちらともいえない	9.87%	12.44%	14.96%	11.67%	12.10%	15.77%	9.63%	12.32%
やや不適切	3.59%	3.59%	3.33%	3.89%	5.65%	4.03%	3.72%	3.52%
不適切	1.35%	2.39%	1.90%	2.29%	1.88%	1.01%	1.09%	0.29%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	223	418	421	437	372	298	457	340

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
適切	44.20%	40.57%	56.06%	57.08%	58.76%	46.64%	60.48%	57.18%
ほぼ適切	36.16%	34.61%	28.74%	29.45%	26.42%	32.21%	23.14%	30.50%
どちらともいえない	16.07%	20.76%	10.69%	10.05%	11.59%	18.46%	13.10%	8.80%
やや不適切	1.79%	2.39%	2.38%	2.74%	2.16%	1.68%	2.84%	2.64%
不適切	1.79%	1.67%	2.14%	0.68%	1.08%	1.01%	0.44%	0.88%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	224	419	421	438	371	298	457	341

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
役に立った	33.93%	29.59%	36.58%	37.67%	37.74%	36.91%	48.47%	46.63%
まあまあ役に立った	33.48%	34.61%	29.69%	30.59%	31.54%	31.88%	27.73%	26.10%
どちらともいえない	24.55%	28.16%	24.94%	21.00%	24.26%	23.49%	19.65%	21.70%
あまり役に立たなかった	6.25%	4.53%	5.23%	7.08%	2.43%	5.03%	3.28%	2.93%
役に立たなかった	1.79%	3.10%	3.56%	3.65%	4.04%	2.68%	0.87%	2.64%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	224	419	421	438	371	298	458	341

設問 13：総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
評価できる	57.40%	56.97%	64.13%	61.87%	65.05%	49.16%	68.49%	66.57%
まあまあ評価できる	29.15%	32.45%	23.28%	24.20%	22.31%	34.68%	20.79%	22.87%
どちらともいえない	10.31%	6.01%	7.13%	9.36%	6.45%	13.13%	8.32%	6.74%
あまり評価できない	2.24%	3.13%	4.04%	2.97%	4.30%	2.02%	2.19%	1.76%
評価できない	0.90%	1.44%	1.43%	1.60%	1.88%	1.01%	0.22%	2.05%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	223	416	421	438	372	297	457	341

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
役立つ	41.18%	41.26%	44.87%	43.58%	45.53%	45.61%	59.92%	33.53%
まあまあ役に立つ	34.39%	30.34%	29.59%	25.23%	27.91%	28.72%	25.38%	37.94%
どちらともいえない	14.93%	19.66%	18.62%	21.10%	19.51%	16.22%	11.60%	20.59%
あまり役に立たない	5.88%	4.61%	4.77%	5.05%	4.61%	5.07%	1.97%	6.18%
役に立たない	3.62%	4.13%	2.15%	5.05%	2.44%	4.39%	1.53%	1.76%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	221	412	419	436	369	296	457	340

設問 15：この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか。

選択項目	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期
役立つ	49.25%	52.16%	48.67%	56.75%	45.26%	50.00%	53.95%	53.24%
まあまあ役に立つ	30.85%	28.75%	28.09%	21.51%	27.64%	27.36%	29.39%	32.06%
どちらともいえない	16.42%	15.78%	19.85%	16.93%	21.41%	17.23%	14.69%	11.47%
あまり役に立たない	1.00%	2.29%	2.66%	2.52%	3.25%	3.38%	1.54%	2.35%
役に立たない	2.49%	1.02%	0.73%	2.29%	2.44%	2.03%	0.44%	0.88%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	201	393	413	437	369	296	456	340

4.5. 自己評価と今後の課題

・学生の学習（設問 2～5）について

設問 2～4 についてはこれまでの傾向から大きな変化は見られない。会計大学院の講義の予習と復習にかける時間が余り多くないという好ましくない傾向は以前のアンケート報告書でも指摘していたが、それに対しては十分な量の課題を出して勉強をさせるという対策を行ってきた。その結果かどうかは分からないが、設問 5 の回答に変化が見られた。これまでは「宿題に 5 時間以上時間を掛けた」と回答した学生は 10% 前後であったが、今回は 20% 近い学生が「5 時間以上」と回答した。「3－5 時間」と回答した学生の数に余り変化が見られないことを考えると、いくつかの科目で宿題の増加があったことが原因かも知れない。会計大学院の講義に関わる勉強に掛ける時間が増えたことになり、本来の趣旨に添う形に勉強時間の配分がシフトしつつあると見ることが出来るかも知れない。しかし、後期の講義についてだけ言えることかも知れないので、引き続き調査が必要である。

・教員への評価（設問 6～13）について

教員への評価は、これまでと同様におおむね良好である。今後とも学生の役に立ち、社会からも必要とされるような教育を心がけていきたい。

・講義の内容（設問 14・15）について

設問 14 についてはこれまでと若干異なる傾向が見られたので、ここで取り上げて考察を付しておく。これまでの傾向は、講義が公認会計士試験を受験する上で「役立つ」が「まあまあ役に立つ」を大きく上回っていた。しかし今回は、この関係が逆転し、「まあまあ役に立つ」の方が多かった。両者の合計は依然として 7 割を越えてはいるものの、この点については悪化したと評価せざるを得ない。しかし、設問 15 に対しては、「公認会計士になってからのキャリア」に役立つと思うかという質問に対してはこれまでと変わらない回答が得られた。会計大学院は受験予備校ではないので、設立の趣旨から言えば設問 14 よりは設問 15 の方が重要である。論述試験に合格しても監査法人に就職できるわけではない実情とあわせて考えれば、設問 15 の評価は喜ばしいと考えて良いだろう。今後とも、会計大学院の教育を充実したものにしていきたいと考えている。

以下は巻末資料である。

資料 1 : 2009 年度後期 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」 設問用紙

資料 2 : 2009 年度後期 「会計大学院の授業に関するアンケート」 設問用紙

資料 3 : 2009 年度後期 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」 集計結果

資料 4 : 2009 年度後期 「会計大学院の授業に関するアンケート」 集計結果

資料1：2009年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2009年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コース

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	本大学院で成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) していない (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体として e-mail, HP を用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院 OB 会を組織したいと考えています。OB 会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない <<特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。>>
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2009年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2009年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コース

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5)90% 以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5時間以上 (4)4-5時間 (3)3-4時間 (2)2-3時間 (1)1-2時間 (0)1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5時間以上 (4)4-5時間 (3)3-4時間 (2)2-3時間 (1)1-2時間 (0)1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5時間以上 (4)4-5時間 (3)3-4時間 (2)2-3時間 (1)1-2時間 (0)1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5)理解できた (4)ほぼ理解できた (3)どちらともいえない (2)あまり理解できなかった (1)理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他	複数回答可能です。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2009年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	3	7.14%
	公認会計士コース(1年)	33	78.57%
	高度会計職業人コース	0	0.00%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	6	14.29%
	合計	42	100.00%
設問2 基礎、展開、実践・応用科目の配置は適切だと思いますか。	適切である	11	26.19%
	ほぼ適切である	19	45.24%
	どちらともいえない	8	19.05%
	やや不適切である	3	7.14%
	不適切である	1	2.38%
	合計	42	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。	適切である	9	21.43%
	ほぼ適切である	12	28.57%
	どちらともいえない	12	28.57%
	やや不適切である	8	19.05%
	不適切である	1	2.38%
	合計	42	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。	5回以上	0	0.00%
	4回または3回	2	4.76%
	2回	7	16.67%
	1回	5	11.90%
	利用しなかった	28	66.67%
	合計	42	100.00%
設問5 Semester開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。	役に立った	10	23.81%
	まあまあ役に立った	20	47.62%
	どちらともいえない	11	26.19%
	あまり役に立たなかった	1	2.38%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	42	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思いますか。	適切である	3	7.14%
	ほぼ適切である	13	30.95%
	どちらともいえない	16	38.10%
	やや不適切である	6	14.29%
	不適切である	4	9.52%
	合計	42	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか。	5時間以上	14	34.15%
	4-5時間	9	21.95%
	3-4時間	4	9.76%
	1-3時間	5	12.20%
	していない	9	21.95%
	合計	41	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか。	役に立った	24	57.14%
	まあまあ役に立った	10	23.81%
	どちらともいえない	7	16.67%
	あまり役に立たなかった	1	2.38%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	42	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていますか。	考えている	30	71.43%
	まだ決めていない	4	9.52%
	考えていない	8	19.05%
	合計	42	100.00%
設問10 OB会について	賛成	24	57.14%
	反対	1	2.38%
	分からない	17	40.48%
	合計	42	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

資料4：2009年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	63	18.53%
	公認会計士コース(1年)	258	75.88%
	高度会計職業人コース	2	0.59%
	経済経営学専攻	9	2.65%
	経済学部	8	2.35%
	合計	340	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	271	80.42%
	89-70%	41	12.17%
	69-50%	10	2.97%
	49-20%	10	2.97%
	20%未満	5	1.48%
	合計	337	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	10	2.92%
	4-5時間	7	2.05%
	3-4時間	16	4.68%
	2-3時間	51	14.91%
	1-2時間	143	41.81%
	1時間未満	115	33.63%
	合計	342	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	15	4.40%
	4-5時間	12	4.32%
	3-4時間	27	9.71%
	2-3時間	76	27.34%
	1-2時間	148	53.24%
	1時間未満	63	22.66%
	合計	341	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	65	19.17%
	4-5時間	19	5.60%
	3-4時間	32	9.44%
	2-3時間	72	21.24%
	1-2時間	90	26.55%
	1時間未満	61	17.99%
	合計	339	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	82	24.12%
	ほぼ理解できた	173	50.88%
	どちらともいえない	74	21.76%
	あまり理解できなかった	11	3.24%
	理解できなかった	0	0.00%
	合計	340	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	185	54.25%
	ほぼ適切	107	31.38%
	どちらともいえない	37	10.85%
	やや不適切	8	2.35%
	不適切	4	1.17%
	合計	341	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	226	66.47%
	ほぼ十分	75	22.06%
	どちらともいえない	21	6.18%
	やや不十分	10	2.94%
	不十分	8	2.35%
	合計	340	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	218	63.93%
	ほぼ十分	78	22.87%
	どちらともいえない	27	7.92%
	やや不十分	14	4.11%
	不十分	4	1.17%
	合計	341	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	203	59.53%
	ほぼ適切	83	24.34%
	どちらともいえない	42	12.32%
	やや不適切	12	3.52%
	不適切	1	0.29%
	合計	341	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	195	57.18%
	ほぼ適切	104	30.50%
	どちらともいえない	30	8.80%
	やや不適切	9	2.64%
	不適切	3	0.88%
	合計	341	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	159	46.63%
	まあまあ役に立った	89	26.10%
	どちらともいえない	74	21.70%
	あまり役に立たなかった	10	2.93%
	役に立たなかった	9	2.64%
	合計	341	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。	評価できる	227	66.57%
	まあまあ評価できる	78	22.87%
	どちらともいえない	23	6.74%
	あまり評価できない	6	1.76%
	評価できない	7	2.05%
	合計	341	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	114	33.53%
	まあまあ役に立つ	129	37.94%
	どちらともいえない	70	20.59%
	あまり役に立たない	21	6.18%
	役に立たない	6	1.76%
	合計	340	100.00%
設問15 この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	181	0.20%
	まあまあ役に立つ	109	0.07%
	どちらともいえない	39	0.02%
	あまり役に立たない	8	0.01%
	役に立たない	3	0.01%
	合計	340	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当する物を選んで下さい。	税理士会計科目	3	1.17%
	公認会計士短答式	11	4.28%
	日商簿記1級	29	11.28%
	日商簿記2級	163	63.42%
	日商簿記3級	51	19.84%
	合計	257	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2009 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	松田 康弘
委員	青木 雅明
委員	伊藤 健
委員	榎本 正博
委員	安田 一彦

会計大学院アンケート実施報告書 2009 年度後期

2010 年 5 月 14 日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会